

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號五二三第 日四十月六 輯編局報情

週報

時^の立^札

土地がな^いのではな^い
肥料がな^いのではな^い
工夫と汗^のあるところ
都心にも^も麥は^も稔る

東京都日本橋區昭和通
に於ける農業の発展

も身も亡ぼす浪費を止めよ

貯蓄一筋の生活へ

なぜインフレが起るか

前大戦にドイツでは、戦費が一〇〇億マルクまで上り、買物にはトランクへ丸束をつめて歩かねばならなかつた、といふ話はインフレーション(通貨膨脹)の恐ろしさを解べる例としてよく知られてゐる通りである。

元來、戦争にインフレは附物で、インフレ防止はできない。唯インフレの程度を防ぐだけだといはれてゐる。戦時中には政府は戦費として莫大な資金を支出するから、國民にその金が渡る。支那事變前、わが國の豫算は二十二億圓見當であつたが、決戦の今年では五百億圓に及び、従つて國內に放出される金額も莫大なものである。この五百億圓の金が撒布されれば、平時でも金の方が多くなり、物が少なくなつて物不足になるのは當然であるのに、決戦下、民需品の生産を抑へて軍需品を増産してゐるのであるから、物が一段と物不足になるのはいふまでもない。その結果、物が尙ほ「地獄の沙汰も金次第」といはれるほどに扱つかないにしても、金さへあれば何でも出来るといふ考へ方から、今は物でなければ何も買へないといふ考へ方に變つて來たのは、切符などがなければ買へない女もあるが、それと同時に、物は大切に消費しても、金などはどうでもよいといふやうな氣持になり勝ちである。これこそ恐るべきインフレを招來する第一歩なのだ。

金と物を切離し置くこと自體が誤りで、金と物は密着した状態では、物を便

に必ず金があり、物の裏には必ず金がついてゐる。金と物とを切離し置くこと自體が誤りで、金と物は密着した状態では、物を便

また金は個人が持つてゐても、民需品はすでに生産が制限されてゐるため、買ひ得る額には限りがある。大した儲けをしない。これに反して政府に金が集められれば、軍需となり、飛行機となり、金は大した儲けをして、金の持つてゐる本来の役割を戦争目的に對して十分に果すのである。

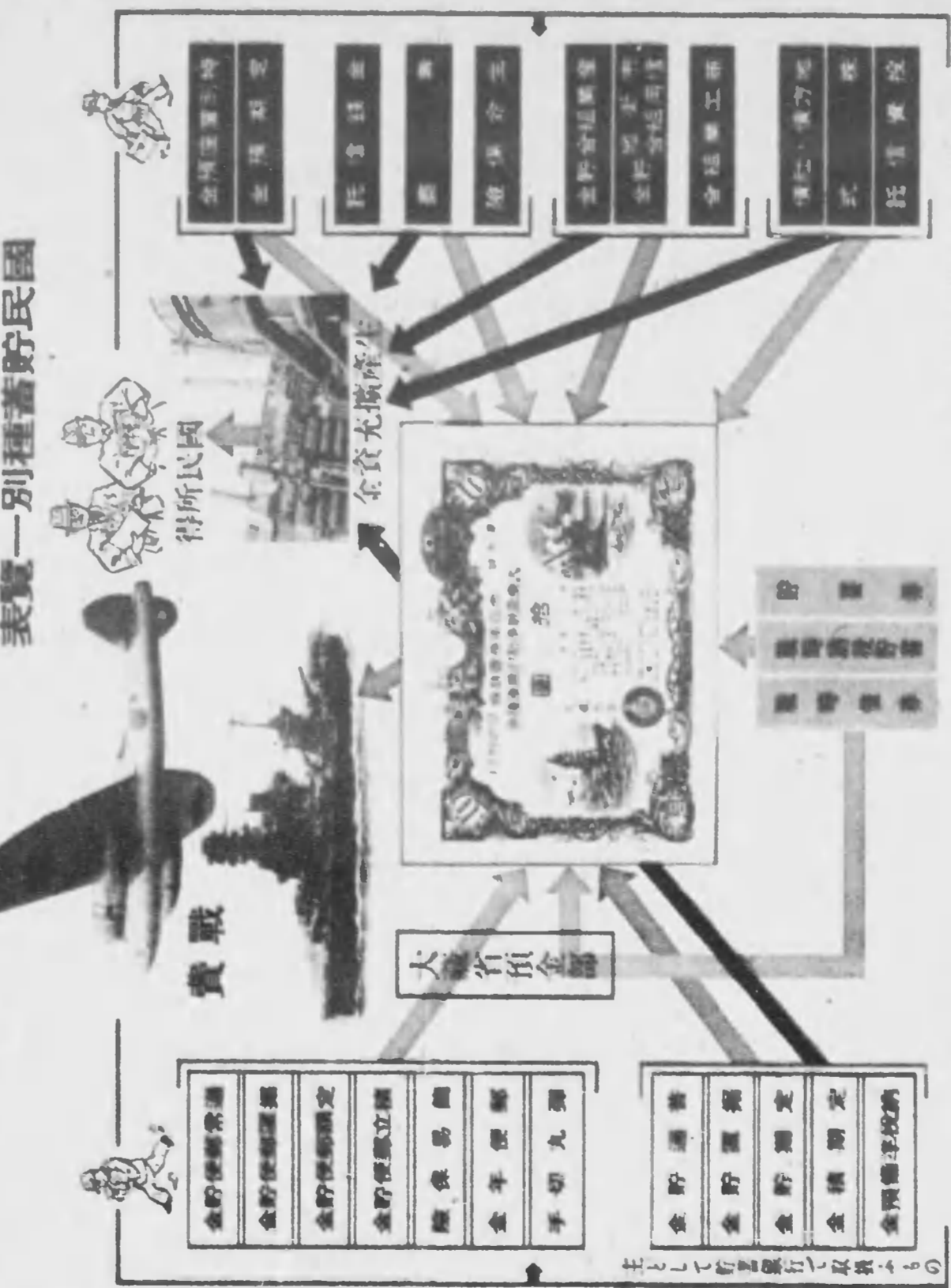
ところが、國民の中には、直接戦争に關係のないものを儲け金だから、戦争遂行の妨害になるまいといふ考へを持つ人や、或は軍需工場で働いて得た金だから少しは儲けても差支へあるまいといふ考へを持つ人もあるが、両方ともやはり戦争の妨害になる。といふのは、誰か金を無意味に使ひすれば、どこかで誰かがそれを穴を穿つたために働いて物を造らねばならぬ。つまり資材、勞力、輸送力、電力、燃料が凝り合つてこのために要する。しかもこれらは軍需に對することが出来るものであるから民需に使ふだけ、電力が食ひ潰されたことになる。物を節約すれば、つまり金を節約すれば、使はずにすんだ資材、勞力、輸送力、電力、燃料などで飛行機、艦船の増産がなしとげられてゆく。

誰にでもできる戦力増強

戦力増強は何も産業職士の増産によつての



表覽一別種貯蓄貯民

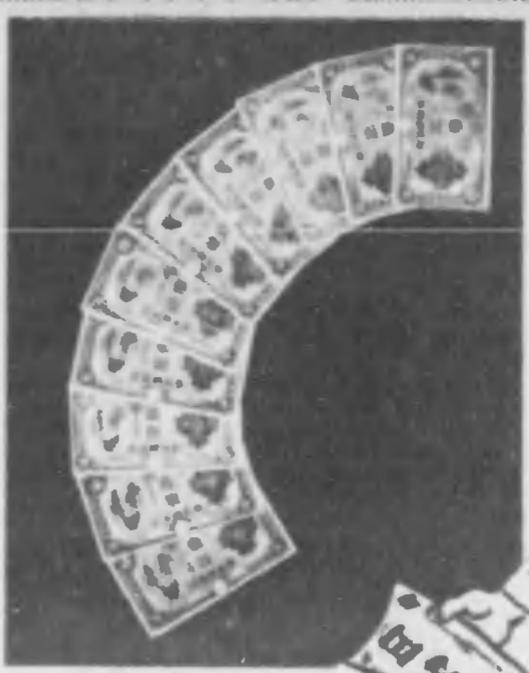


田んぼで戦力増強に寄與したことを数字で示すことになる。

今年の國民所得は六百億圓とされてゐるが、戦費はそのうち三百八十億圓であるから、いきほひ、國民の生活費は去年より一割五分も切下げなければならぬ。これは大戦の努力ではなしとげられない。しかし、是が非でもなしとげれば、物と金が割合はなくなり、無常の恐慌となり、一儲がインフレの禍首と

現在のところ支那戦中、最もインフレ防止に成功してゐるのは、大戦の経験で得たドイツ、次いでわが國が英國を連いで第二位である。大戦が國が臨時に輸入したのは支那戦中では最も早く、二年七月であつて、ドイツ、アメリカより二年二月、ソ連より三年四月、アメリカより四年四月、日本は三月、我が國の貯蓄成績は、これらの國に比して國民の努力によつて決して悪くないのである。

これまで貯蓄については熱心でなかつた



増定定期預金

我が國の紙幣流通高は支那事變前には一人當り十圓でしたが、今では百圓にまであつてゐるといふはれませんが、餘分にお金を持つてゐる人が非常にふえたことになり、多く持つておれば、どうしても物不足を感ずるものではないですか

介石でさへ、米一斤が昨年十一月の百六十六元から本年二月には三百元といふ風に暴騰する天舞知らずのインフレに悩んで、今年三月新生活十周年記念日に

「勤勞と節約は國民の義務である。生産増進による國民所得の増大は従前に消費して、生活水準を確保してはならぬ。自給自足の國家の精神と節約を以て貯蓄を國民的義務とするために、毎月この家で、百円は國民の義務として貯蓄せよ」と

と題して、國民に呼びかけられてゐるほどで、貯蓄にも重きな役割を担はねばならぬ。氣を以て進まねばならぬ。

一銭を貯めてこの一戦に勝たう

紙幣を印刷すればいくらでも金はいふから、それが物を買ひ、戦費として使ふのは一方は物が生産されることにより國民が働いて物を造ればならぬ。造られたものを政府が買上げ、それに相當する金が國民に渡され、さらに貯蓄となつて政府に送り、再び飛行機、艦船となつてゆかねばならぬ。

「戦争に勝つためなら、戦費が三百八十億圓では足りない。アメリカでは一戦費は九百億圓ではないか。四百億圓でも五百億圓でももつと貯めて使つてくれ」

といふのが決戦下の國民の精神を執持せよ。前線の陣地に十分の飛行機も送らず、後方として使はれる日本人は一人もあつてゐない。

この氣持に變れば、國民の儲けがどのくらい、もう十分だとかはいへないはずである。それこそそんなに貯蓄をしたらさへないといふのなら果に、そんなことはないのだから

ら、早く銀行及び郵便局へ預入れせよ。それには耳寄りな貯蓄方法が、六月十五日から七月十四日まで募集されてゐます。これは圓を一口の單位として、銀行に年三分の利で二年預入するので、すると八月十五日には抽籤が



あつて、十萬圓に一等十圓、その前線に五十圓、また二萬圓、三萬圓が賞金としてつく上に、一等の中から更に特等一萬圓とその前線に五萬圓がつきます。但し特等に當つたものには一等の賞金はつきません。しかも増金はすべて運賃で九月五日以前に支拂はれます。手許にある金を戦力に役立てながら、自分も儲かる。誰の人は儲けるのうらなひですか

もつと國債を買つて飛行機を送らう

ことに貯蓄は政府が個人の金を取上げるものでもなく、めい／＼の將來の財産となるものである。また大東亞非榮國の無限な寶庫を持つてゐる以上、戦勝の暁は今の貯蓄が大きく生きてくるのである。

だから貯蓄すればそれだけ自分の財産を築き、しかも國に役立つてゐるわけで

貯蓄を願ふのは「自分は財産なんぞ作りたくない」といふのと同じで、ちやうど子供が親や先生から「儲けをしな、業をのめ」と健康を氣づかして注意されるのに「いや、自分は丈夫になりたくない」といふやうなだをこらへてゐるのにも似た馬鹿な話である。

もう一つ貯蓄する上に看過してならぬのは、節約である。一人の一銭一銭は何でもなくとも集まれば大した額になる。例へばガスに火をつける場合、マッチをつけてからガスを出すのと、ガスが出てからマッチで火をつけるのでは、東京府だけの計算で年に石炭五萬トン近くも違ひ、この石炭をもとにして飛行機二千架分のアルミが造られようといふ。ほんの一瞬のちがひが積り積れば、これほどに大きなものとなるやうに、貯蓄もまた、一銭を築きよめるのはこの一戦に勝つる基となることを銘記して、何が何でも貯蓄を奨励せねばならぬ。

血戦相次ぐニギギニア 皇軍鬼神の奮闘

去る四月二十二日、敵はニギギニア西海岸にてあつたが、五月二十七日には更にニギギニア西北側ピアンク島に有力部隊の上陸を強行し、これを襲撃つたわが守備部隊並びに航空隊は、その後、海岸沖に機銃火力を増強した。これを迎撃つたわが守備部隊並びに航空隊は、その後、海岸沖に機銃火力を増強した。

部隊は、多数の敵艦艇を撃沈する大戦果をあげる上共に、目下激戦中である。なほ、同じく五月中旬、西部ニギギニア、トル河口附近に上陸した有力な敵部隊に対しては、所在のわが部隊及びホーランドイア附近より増援した部隊が、同じく五月二十七日より強襲を反撃。既にその大半を撃滅し、引続き残敵を攻撃中である。しかも、同方向に対する敵の作戦企図が、

ニギギニアに対するわが部隊を襲撃し、あはよくは比島奪還の進路を、この方面より打開せんとする線を見つて、今後一掃滅化することは想像に難くない。これに対し、ニギギニア方面の皇軍精鋭は士氣よく旺盛な物量を持って一氣に押し切りらうとする敵を、随所に撃滅、鬼神も笑く勇戦を続けてゐる。 昭和 日本新聞社

週間點描

大陸に征野四年、支那派遣軍總司令官畑俊六大将は元帥府に列せられ、軍の陣容ますます強まる。 × 先きに河南第一戦果を挙げた皇軍は、さらに江南第六、九戦果に迫り、軍勢は更に勢を伸ばす。 勇戦は知つたか、わが兵力。 ×

「戦線はきつたので、段取り二十五日の参謀に探れませう」と、うれしさに語るお百姓さんに東條総理も我が意を得たりと頷く。一粒の麥も、工夫と汗の増産魂に懸る。 × 北原アツ島に全員玉砕して早くも一年。一億同胞の日に、協力部隊に対し御功の御沙汰あらせらる。國民の憤りは今もなほ湧つて、烈々の闘争を燃えてゐるのだ。

□ 連日激戦、敵軍の大いなる歩兵を討つて。



□ 必殺の剣を佩び、密林を抜く □ 機銃めがけて、重機の特射



□ 柱を掘りに機銃を懸えて □ 陣路を急襲と共に



石五水通 歌凱に事工貫突

桑野聖開の阪本三三三議員



水が通れば、田圃は自然に潤す。この気持、農民はこれに味はへた。大田

天然の貯水池十和田湖の水を利用して、開田三五〇町歩、米九万石を得ようといふ三本木原開墾事業は、昭和十三年竣工、すでに工事はその大半をこぼしたが、大東亞戦争の進展は、こゝにも資材と労力の困難をつくつた。しかも、現下の國內食糧事情は遂に工事の急遽な進捗を要求する。

第二次食糧増産方針に基づいて、来年度完成予定の深持工區百町歩に「本年の植付前までに通水すべし」といふ指令を受けたのは、ついでこの三月、三本木原開

墾事務所では全く頭をかき割

だが、鎌田所長、現場を視察つ

畑さんは決心した。「不可能を可能と

せよ」といふ重役首長の言葉を活か

すのはこゝだ

積年の雪、消えやらぬ三月末、法

泉の取入口から開田地深持まで延長

約三里の導水路は、青森師範、八戸

中野など生徒勤報隊汗の奉仕まで加

へて、物凄い突貫工事に入つた

そして、五月二十七日、海軍記念

日の佳き日、十和田湖を水源とする

奥入瀬の水は、新開田地深持へ、流

れ流れたのであつた。今秋二千石増

産の豊稔をのせて……

水除けの

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

田圃の

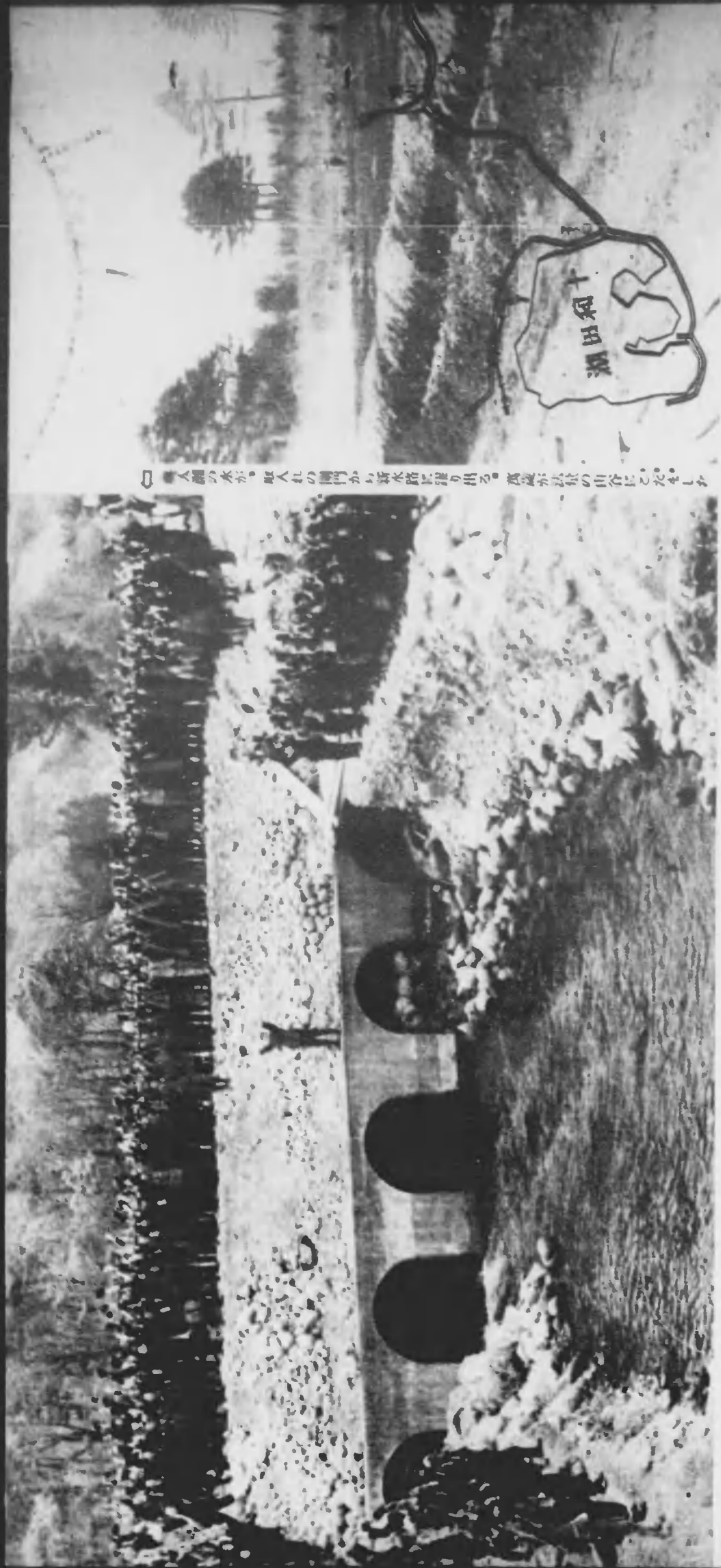
田圃の

田水威邊

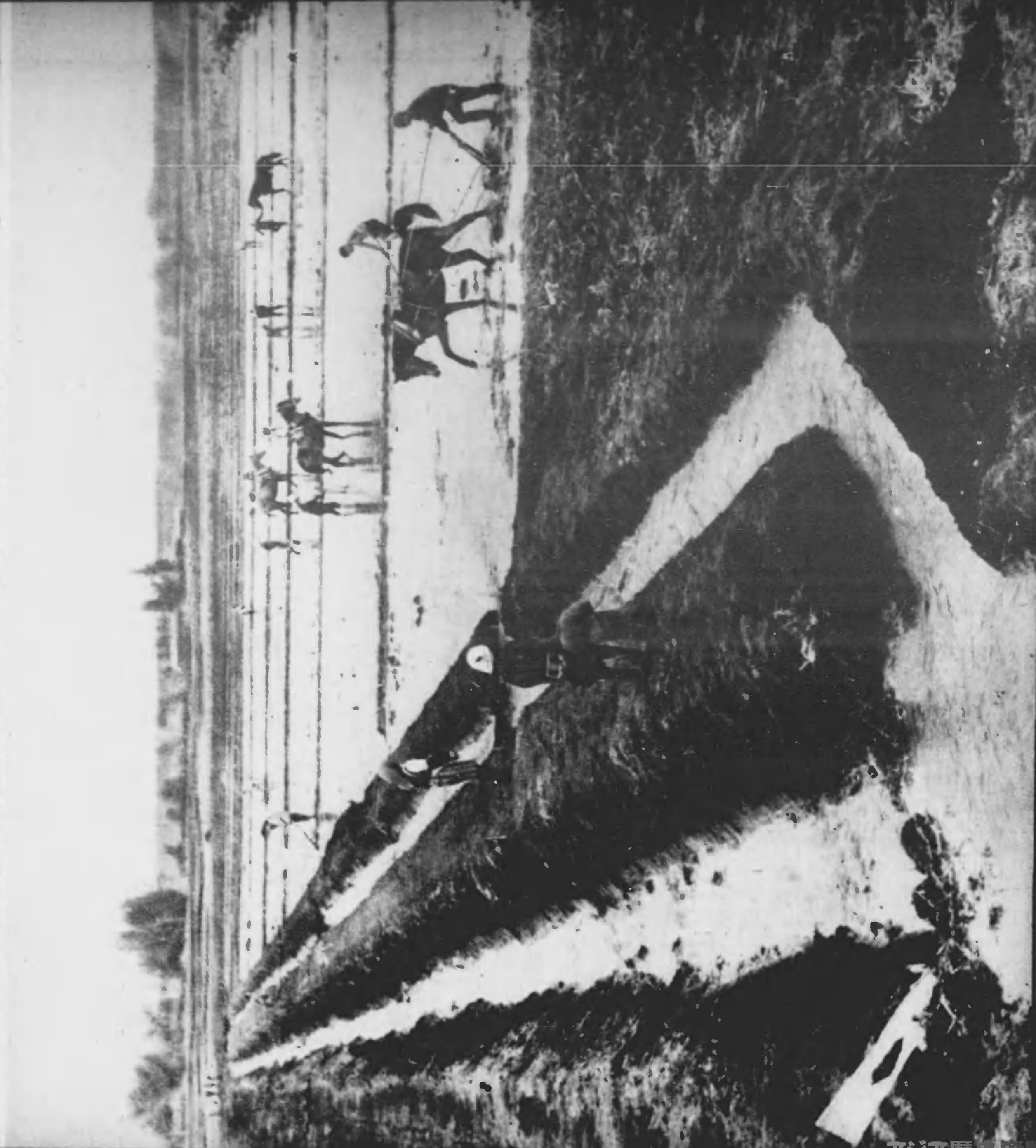


新しい導水路の底を覆つた水先が流る。導水路は突貫工事では重宝と、この以外にはコンクリートを伸ばさず、みな土製で間に合はせてゐる。田圃から注ぎ入る水が、新開田地深持に満ちてゆくと、お百姓さんにはもう切れ切れ、通水のその日、深持の人びと、代掻きに新田の肥水を勤むよくはね上げた。





人々の水が、町人の門内から新水路に譲り出る。萬葉歌の山谷に、元々し



スマトラに穂りの凱歌

茶屋 だより



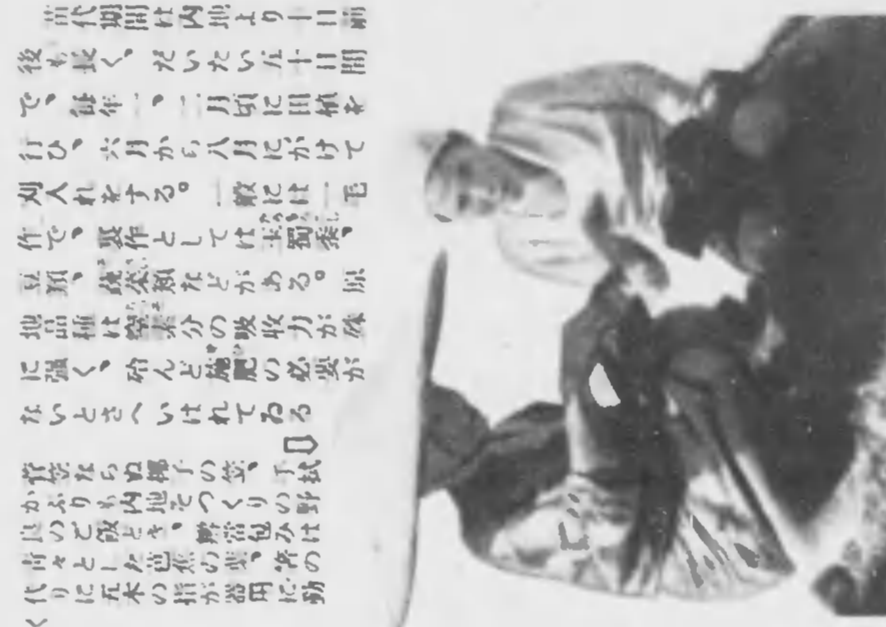
山といひ、田といひ、
 農具といひ、あまりに
 も内地に似て親しみが
 感ぜられる。たゞおよ
 つと異なところは牛の
 代りに水牛を使つた代
 無き風景



昔から傳はる種(トコ)は獨特の建築様式を以て有名である。こ
 の建築の多少はそのまゝ家の様式や家具をまねしてゐる

戦ふための糧―内地の食糧増産と呼應して、いま大東亞各地域で
 は、それへの自給自足から、さらに餘剰米の移出をめざして食糧の増
 産に日夜接がまぬ奮闘を續けてゐる

スマトラ軍政監部でも今回、島内戦時食糧の自給自足をめざして陸軍
 部門に臨時食糧班を設け、移民の導入、農具、藥品の確保及び集荷配給
 機構の整備を行ひ、食糧の調劑的増産に導き出すこととなつた。米作
 の主目標なる耕地の擴張と多收品種の普及も刻々成果を収めつゝあり、
 すでに地域的には内地米作状況に近いものもある



苗代期間は内地より十日前後も長く、だいたい五十日間
 で、毎年一、二月頃に田植を
 行ひ、六月から八月にかけて
 刈入れをする。一般には一毛
 作で、裏作としては玉蜀黍、
 豆類、蔬菜類などがある。原
 産品種は窒素分の吸収力が殊
 に強く、殆んど施肥の必要が
 ないとさへいはれてゐる

苗代期間は内地より十日前後も長く、だいたい五十日間
 で、毎年一、二月頃に田植を
 行ひ、六月から八月にかけて
 刈入れをする。一般には一毛
 作で、裏作としては玉蜀黍、
 豆類、蔬菜類などがある。原
 産品種は窒素分の吸収力が殊
 に強く、殆んど施肥の必要が
 ないとさへいはれてゐる



苗代期間は内地より十日前後も長く、だいたい五十日間
 で、毎年一、二月頃に田植を
 行ひ、六月から八月にかけて
 刈入れをする。一般には一毛
 作で、裏作としては玉蜀黍、
 豆類、蔬菜類などがある。原
 産品種は窒素分の吸収力が殊
 に強く、殆んど施肥の必要が
 ないとさへいはれてゐる



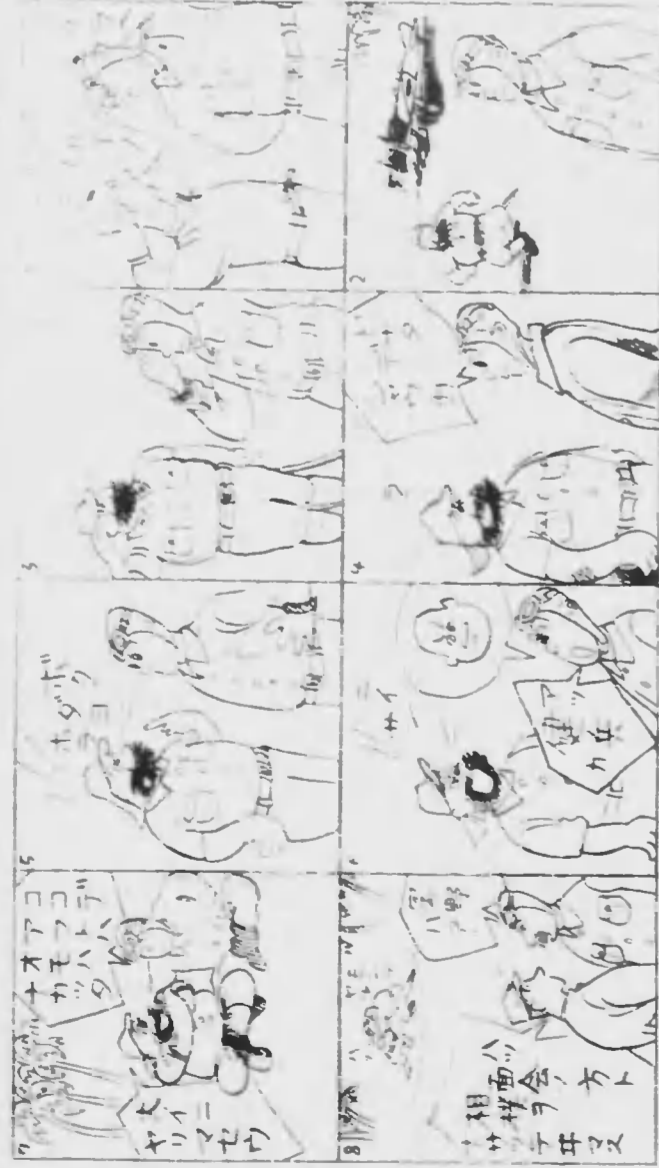
南方各地に於ける稲作の様子

米穀軍政監部の作務

建設 スマトラ軍政監部



決戦兄弟



おれがた! おれがた!

問題 一家の家では、昨夜...

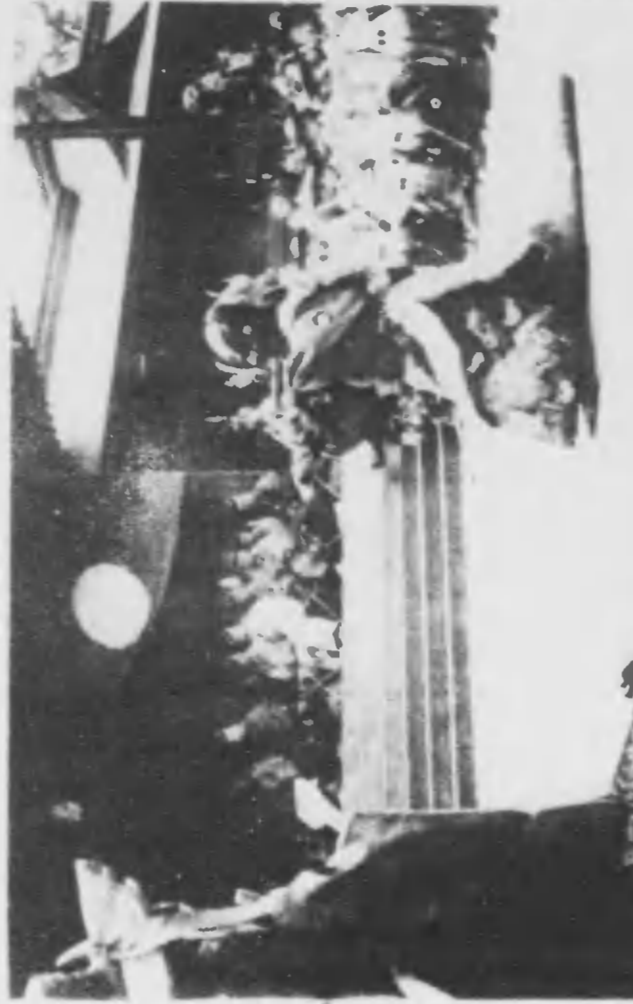
後藤又兵衛

後藤又兵衛の物語の序文部分...

後藤又兵衛の物語の本文部分...

菊水の翼工場

淡路下に橋公五百五十年祭...



仰ぎみる橋公の郷土河内...



Music score for '僕は空へ君は海へ' (I am the sky, you are the sea) with lyrics and musical notation.